

なつて現はれるときには、常に一種の形式のもとに統轄せらるゝのが常である、言ひ換ゆれば個人の信念は社會的現象として個々の宗教のもとに統轄せられる、そして宗教には名々その形式がある、此點より見て彼等の宗教は所謂シャマン教に屬するのである、シャマン教が一つの宗教と云ひ得るかどうかは茲に云ふべき限りではない、只だ彼等の信仰に伴ふ形式に對して最も普通なるシャマン教の名を配するにすぎぬ、敢て形式と云ふ所以のものはシャマン教それ自身に別段の教條の規定せられたるものがないからである、（あるかもしけないがまだしらない）、抑もシャマン教といふ名はどういふ所から起つたのかといふと、巫人なるものが、人と人の信仰の對稱との間に立つて兩者を相通ずる、その巫人を滿洲語でシャマス (Shamas) といふ、かゝるところからして滿洲邊の巫人の司る宗教 (?) をシャマン教と云ひ出したのがもとであるといふことである、蒙古でも、此當時等しく巫人なるものがある、そうしてこれをカム (cham) といふて居る、ルブルキーはカムを成吉思汗カンなどの汗 (Khan) と同じ語だと云ふて居るが、これは明かに誤つて居るもので、土耳其、及びタール民族のカム (Kam) 卽醫師、野師、夭術者等の意味のある言葉と同じで、けふも尙ほベルチールタ、ールはカメン (Kamen) と云ひ、キルギースはカムチュア (Kmuts-cha) と云ひ、滿洲では前述の様にシャマスと云ふて居るそうだ、即ち是等は廣く北方民族の間にひろがれる同一の言葉なので、蒙古語のカムが野師とか、醫師とか、夭術者とか云ふ意味をもつるとともに、滿洲語のシャマ即ち巫人も同様の意味の言葉にすぎないのである、滿洲のシャマが神人の間をとりもつと等しく蒙古ではカムがとりもつ、蒙古の宗教も即ち所謂シャマン教に外ならんのである、更に立ち入つた問題になるが、一體こんなことに與かる人間を爲ゼシャマとかカムとか云ふのであろうか、既に先輩の説があるかどうか知らないが、自分